



## 400年の お城の友情

心  
あ  
つ  
た  
か  
ニ  
ュ  
ー  
ス

NMCAA  
NO3

神奈川県の小田原城は、天守閣の改修工事が去年の7月から行われていました。改修工事を終え、一般公開が再開された一日の入館料すべてを熊本城の復興に全額寄付したそうです。熊本城の被害を見た、小田原市が動きます。「リニューアルしたばかりの小田原城とは対照的に、瓦も落ち、櫓も崩れてしまった。熊本城の姿は悲惨でした。できることはないかと課内で話し合いをし、入場料の寄付と募金箱の設置を決めたんです」市観光課・府川さん(加藤憲一・小田原市長は18日、小田原城内で集めた約200万円の寄付金を大西・熊本市長に手渡し、城がリニューアルオープンした5月1日の入場料約245万円も、市議会の承認を受けてから寄付されとのこと。これをうけ大西一史・熊本市長はツイッターで「お城からお城への支援は歴史的です。私も落ち着いたら小田原城にお礼に行きたいと思います」とつぶやいた。

小田原と熊本の歴史的な縁は江戸時代からあるようです。寛永小田原地震(1633年)の寛永小田原地震により建物多数倒壊し、約150人が死亡。小田原城にも被害が出た。市学芸員の佐々木健策さんによると、当時の小田原藩主・稲葉正勝と熊本藩主・細川忠利はとても仲が良かったという。ともに明智光秀の姻戚で、稲葉が熊本城を訪れたこともあるほどだ。地震を知った忠利はすぐに手紙を、江戸にいた忠利の父忠興も見舞いの使者を送った。稲葉は礼状を返したという。だからこそ、今回の寄付はまさに、「400年前の恩返し」とも言える。

BuzzFeed より

### 善意は人を集め、 環境にも役立つ

インド南部のあるレストランで、店先に冷蔵庫を置き、店で余った食べられるけど廃棄”となってしまう余剰分とミネラルウォーターを入れて、誰でも持っていけるようにしたところ、近隣の飲食店からの提供とそれを知った地帯の人達の差し入れで

人が集まる地域のコミュニティとなっている。

「たとえ、それがリスキーだったとしても、社会が良い方向に向かうならやろうと思ったんです。だって、これまでも誰もそれをやって来なかった訳だから。結果、何も変わらなかつたんです。

「ただ自分だけで稼いだお金を浪費しても、それは自分のもの。でも、社会の資源を無駄にしかつていい訳はないですよ。資源のムダもダメ、食品ロスもダメなんです。」

#### 編集後記

誰かのために行動することが始まりなのだと思います。相手を思いやる行動は、時間を超越して、人から人へしつかりと伝わっていくのですね。地球の環境に優しいことは人にも優しいことで、人が集まるところだと思います。